



埼玉西部消防局 山岳救助隊 NEWS



創刊号

平成26年
8月9日発行

埼玉西部消防局 山岳救助隊発足

平成26年7月1日、埼玉西部消防局 山岳救助隊が発足し飯能日高消防署に配置されました。

当消防局管内の西部地区には、秩父山系から延びる1,000m級の山々が連なり、一年を通じて多くの登山者が訪れます。その様な中、残念ながら山岳遭難事故が多く発生している状況にあります。

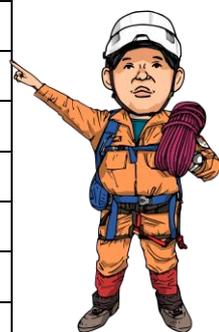
このような山岳遭難事故に、的確に対応するため山岳救助の専門的な知識・技術を有する隊員30名により山岳救助隊が構成されています。

この「山岳救助隊 NEWS」を通じて、救助活動のみならず多くの登山者の皆様に、山岳遭難事故の状況や山岳地域の情報を知っていただき、山岳遭難事故防止に役立てて頂ければと思います。



埼玉西部消防局管内 山岳遭難事故発生状況（平成26年1月～7月）

2月20日	7時頃	正丸峠	60代男性	大雪による孤立	軽症
4月13日	10時頃	古御岳	70代女性	下り坂で転倒、数メートル滑落負傷（歩行不能）	中等症
5月16日	20時頃	大高山	10代男性	道に迷い、日没をむかえ行動不能	軽症
6月1日	12時頃	高畑山	40代女性	下り坂で転倒し負傷（歩行不能）	中等症
6月14日	14時頃	蕨山	60代男性	下り坂で転倒し負傷（歩行不能）	中等症
6月14日	14時頃	高麗峠	30代男性	林道内にてマウンテンバイクで転倒し負傷	重症
7月23日	13時頃	多主峰	80代男性	前日より所在不明となり山中で発見される。	軽症
7月26日	14時頃	棒ノ嶺	30代女性	沢道を下山中に転倒し負傷（歩行不能）	中等症



登山届けを提出しましょう！！

いざという時に、役に立つのが「登山届け」です。消防・警察の山岳救助隊は、提出された登山届けの情報をもとに、捜索活動を行います。登山届けは、登山口に設置してあるポストや、埼玉県警察のホームページからも提出できます。また、家族や身近な人に渡しておくだけでも大きな情報源となります。



夏山の登山にご注意を！

行楽シーズンを向かえ、涼を求め登山を計画される方も多いのではないのでしょうか？

転倒や滑落の事故に加え、5月から9月にかけて頻発するのが熱中症などの疾病による遭難事故です。

登山中は「熱中症」にかかりやすい環境であることを知っておきましょう。



登山中に熱中症を起こす主な理由

- ・ 登山中は汗をかきやすい。
- ・ トイレを気にして、水分補給を控えてしまう。
- ・ 先を急ぎ、こまめな休憩や水分補給を怠る。
- ・ 荷物の重量を軽くするため、飲料水の携行を減らしてしまう。
- ・ 呼吸から体内の水分が予想以上に失われる。
- ・ 周りを気にして着替えを怠る。

山間部でも夏季の日中は、気温がかなり上昇します。水筒などをザックの中に収納していると、立ち止まりザックを下ろすのが億劫になり、水分補給を怠ってしまいがちです。水分補給はこまめに行う事がとても大切です。

取り出し易い様に水筒を携行したり、ハイドレーション（水筒とチューブからなり、バックパックなどに背負ったまま給水できる。）などを利用して、こまめに水分補給するように心がけましょう！

登山行程を気にするあまり、少し具合が悪くても我慢しがちになってしまいますが、その我慢が大きな遭難事故につながります。登山リーダーはメンバーの様子を気にすることと、メンバー内でもお互いに気を配りましょう。個人でも我慢することなく無理をせずに同行者に伝えるなど、登山計画の変更や中止も視野にいれ、早め早めの対応が必要です。

こんな症状があったら要注意！！

- ・ 身体が重く、歩くのがだるくなってくる。
- ・ 同行するパーティーのペースについていけない。
- ・ 食欲がなくなる。
- ・ 足が攣ったり、筋肉の痛みを感じる。
- ・ トイレに行っても、尿があまり出ない。
- ・ 寒気を感じ、足がガクガクしてくる。

なにより熱中症予防が一番大事！！

- ・ 入山前に十分な食事、水分補給をしておく。
- ・ 登山計画に基づき、余裕をみた飲料水を携行する。
- ・ スポーツドリンクなど、塩分の補給できる飲料水を携行する。
- ・ こまめに水分補給を行い、十分な休憩をとる。
- ・ 着衣により体温をコントロールし、汗をかいた時には着替えをする。
- ・ 登山行程内の水場を確認しておく。

街中とは違い、山間部で熱中症にかかる、医療機関に行くまでかなりの時間を要してしまいます。街中では大丈夫でも山間部では命の危険があるかも知れません。

登山の基本！事前の準備計画がとても大切です。暑いと食欲もなくなりがちですが、食事により糖分をしっかりととり、汗をかいたら、塩分補給をしっかりと行いましょう。

山の中での熱中症対処方法

- ・ 塩分・糖分の入った飲み物を飲ませる。
- ・ 直射日光を避け、日陰の涼しい所に移動する。
- ・ 横になって安静にし、手足に水をかけ扇ぐ。
- ・ 行動不能や意識がおかしければ、直ちに消防・警察に救助要請する。

熱中症は重症化すると命の危険にもおよぶ大変危険な疾病です。また身体が脱水状態になることにより、心筋梗塞や脳梗塞を誘発することもあります。登山前から体調管理をしっかりと行い、登山の際には十分な準備と余裕のある計画で、楽しい登山となるよう心がけてください。



